

がん患者団体等ヒアリング・ワークショップの実施概要について（未定稿）

1 日 時 平成24年9月6日（木）13:00～17:15

2 場 所 県庁本館 講堂

3 参加団体 10団体

団体名	代表者
乳腺疾患患者の会 のぞみの会	浜中 和子
がん体験者の会 とま〜れ	佐々木 佐久子
まちなかりボンサロン	角舎 学行
グループ・ネクサス 広島支部	中川 久美子
乳がん患者友の会 きらら	中川 けい
広島・ホスピスケアをすすめる会	石口 房子
ウィメンズ・キャンサー・サポート	馬庭 恭子
NPO法人がん患者支援ネットワークひろしま	廣川 裕
NPO法人広島がんサポート	浅原 利正
(意見書提出のみ) がんと共に生きる会 広島支部	石橋 健太郎

4 出席者

9つのがん患者団体等からの12名と、協議会委員やがん診療連携拠点病院の相談員等、合わせて50名余りが出席

※オブザーバーとして厚生労働省「がん対策推進協議会」委員の本田麻由美氏が出席

5 内 容

次期がん対策推進計画に盛り込む内容について、がん患者団体等からの意見や団体間で議論された提案を聴取

※ 意見等の概要は別紙のとおり

(1) 患者団体等の主な意見（ヒアリング）

項 目	主 な 内 容
がん予防	<ul style="list-style-type: none"> ○禁煙運動を県民のものにするための「受動喫煙防止条例」の制定 ○地域の保健環境を守る保健師などの人材育成
がん検診	<ul style="list-style-type: none"> ○対策型検診に留まることなく、肺がんCT検診など県主導で有効性を検証するための研究となるような検診を実施, ○HPV（ヒトパピローマウイルス）検査との同時実施など更なる精度向上を目指した検診の導入による医療費や検診コスト削減
がん医療	<ul style="list-style-type: none"> ○患者や医療者のニーズを把握するためのヒアリングや調査の継続的な実施 ○医療の質の向上と地域間格差のない機会の平等化のため、各地域の診療の実情・レベルを調査・把握して整備計画やモデル案を策定 ○がん診療連携拠点病院の更なる地域偏在の解消と現拠点病院の一層の機能充実、県民への周知 ○進行がん患者に対する長期的な治療情報の確実な提供 ○国際的に標準的とされている治療等で保険診療が適用されない治療に対する県独自の支援や保険適用に向けた国への働きかけ (希少がん) ○検討の場を設置し、希少がん医療に関する現況調査やサポート体制等の対策の推進 (小児がん) ○小児がん対策並びに小児がん拠点病院（仮称）について、広島大学等を中心としたネットワークを構築して拠点化・集約化を推進 (医療関係者の人材育成・確保) ○認定看護師、認定医師、放射線技術者など専門的な医療従事者の育成 ○抗がん剤治療を行う腫瘍内科医の各地域拠点病院への配置 ○がん拠点病院への複数の医師，専門医療スタッフの配置 ○医師や専門医療スタッフに対する研修等の機会の充実と、休暇利用や受講経費の支援など受講しやすい環境づくり ○がん医療の向上と充実のための研究環境の整備
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ○対応が遅れているメンタル面のケアが治療と並行して可能なシステム作り ○県民が自らの人生の閉じ方を安心して思い描け、地域で緩和ケアが実現する支援体制

項 目	主 な 内 容
情報提供・ 相談支援	<p>(がん患者団体等の活動支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相談会や講演会等に係る会場の確保や広報等の支援 ○小口ファンドや基金の設置による活動資金の助成の仕組みづくり ○団体間での情報交換や連携等を図るためのワークショップや集会の企画運営
	<p>(がん相談体制の充実等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通の体験と共感を基にした精神的サポートを推進するためのピアサポーターの養成及びがん拠点病院におけるピアサポート事業の展開 ○誰もが自由に利用できる相談窓口の増設と患者団体の活用 ○TV・ラジオ等を活用したがん相談受付機関（患者会を含む）の紹介 ○ケアを提供する側（医療者、福祉職など）のサポート体制
	<p>(地域間格差の解消)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中山間地域、島嶼部の患者支援のための行政サポート
	<p>(がん患者への就労支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療機関と県の労働関連部署、ハローワーク等が連携し、がん患者への就労支援を推進
	<p>(がん教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒を対象としたがん教育の充実のため、がんの専門医等による教師・学校関係者への啓発やがん患者団体等の経験や知識を活用
	<p>(普及啓発等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○がん検診の重要性など、がんの正しい知識の普及啓発 ○患者団体を中心とした啓発活動への連携・支援のみならず、県が主体となった啓発活動を推進 ○がんに関する県民意識の向上に向けた実態調査の実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○喫煙率や子宮頸がんワクチン接種率やがん検診受診者の正確な人数などのデータを公表と、これまでのがん対策の取組の評価 ○計画に明確な達成目標を設定するとともに成果の検討が必要

(2) ワークショップにおいてがん患者団体等の中で討議された提案内容

テーマ	主 な 内 容
がん患者会の位置付け (経験者の活用)	<p>(現状, 課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○患者の心の支えになるような活動をしたいが資金や場所等の確保が困難 (目指す姿) ○医療体制の中に患者や患者団体の役割を位置づけて活動の場を与える (必要な取組) ○県が病院のがん相談室にピアサポートを配置 ○患者自身が役割に応えるために学習し, 医療関係者も学習会等を支援 (取組の効果・成果) ○医療専門家ではできない相談・支援ができる ○患者自身の体験が生かされ, 誰もが生かされあう自信や信頼感が生まれる ○相談室の利用率や患者満足度調査により評価する
ピアサポートの育成	<p>(現状, 課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ピアサポートの養成, 人材育成に一貫性がない ○経済的サポートがない (目指す姿) ○質の高いピアサポーターが十分に配置され, よりよい相談が受けられる (必要な取組) ○患者団体, 行政, 医療機関が連携して, 県が作成したカリキュラムによるピアサポートを養成し, 各医療機関に配置 (取組の効果・成果) ○患者が高品質のピアサポートを受けることができ, 安心できる ○ピアサポーターの人数と, 患者の満足度調査等により評価する
医療従事者への支援	<p>(現状, 課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療従事者が疲弊し定着率が悪い ○医療の高度化・専門分化についていけない (目指す姿) ○専門性の高い人材を確保し, 均てん的に配置 (必要な取組) ○行政がNPOに委託して, がん患者にケアを提供する医療関係者に対するカウンセリング等のリフレッシュ事業を行うセンターを設置 (取組の効果・成果) ○心に余裕のあるケアの提供や看護師等の離職率の低下 ○看護師等への満足度のアンケート, センターの利用実績, 離職データの把握により評価する
学校でのがん教育の取組	<p>(現状, 課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校でのがん医療に対する教育が不十分 (目指す姿) ○がんに対する理解を子どものうちから深めるための継続的ながん教育を行う体制の整備 (必要な取組) ○行政や県, 体験者, 医療者が連携して, 授業の一環として医療の知識や体験談を聞かせたり, 喫煙や健康的な食生活等の予防教育を実施 (取組の効果・成果) ○本人が正しい知識を習得して理解を深め, 将来の検診の受診や不安の軽減につながるとともに, 家族や知人へと広がり, さらなる効果が期待できる